

令和7年度 学校評価報告書

丹波篠山市立城北畑小学校

校長 足立 真一郎

1 学校教育目標等

自他を大切にし、ともに学び合う子どもの育成
～大好き自分・大好き友だち・大好き城北畑～

2 今年度の重点目標

- 1 安全で安心して学べる教育環境（学校・学年・学級）づくりに取り組む。
- 2 夢や目標をもち、自立して未来に挑戦する児童の「生きる力」を育む。
- 3 確かな学力の育成をめざし、自ら学び自ら考える授業を創造する。
- 4 児童が持っている良さや可能性を引き出し、望ましい生活習慣の定着を図る。
- 5 自主的・自律的・協同的な特別活動の充実を図る。
- 6 学校・家庭・地域の連携を深め、「地域とともにある学校づくり」を探求する。
- 7 全教職員の協働体制整備と資質能力の向上に努め、特別支援教育の充実を図る。
- 8 自分の健康や体力に興味をもち、スポーツの楽しさを味わわせ、体力・運動能力の向上を図る。
- 9 働きやすい職場環境づくり、教職員の資質能力の向上及び教職員組織の活性化を図る。

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	安全な生活習慣や態度を身につけ、危険予測・危険回避能力を高める安全教育を進める。	B	研究指定を受け、講師を招いた全教員参加の授業研究を3回実施し、授業改善について全校での共通意識のもと推進した。次年度、安全教育の継続と教育課程全体での充実につなげていきたい。
	児童が、主体的、対話的で深い学びができるよう指導方法を工夫している。	B	児童評価では8割が肯定的評価である。これからもペアやグループ学習の充実や伝えたいと思える発問や問いかけの工夫、学び合いたくなるような授業改善を行う。
生徒指導	問題行動に対して早期に組織的な対応に努め、楽しく明るい学校生活を送れるよう指導を行なう。	A	いじめアンケートや学年会議による早期発見・早期対応により解消できている。豊かな人間関係づくりや自ら考え、自己選択・自己決定ができるよう支援してきた。また、不登校支援の取組を組織的に推進した。
	専門家(SSWR・SC・心理士等)との連携による児童理解と組織的な対応の充実を図る。	A	専門家を交えたケース会議の充実により、組織的な対応による環境調整など効果が上がった。また、教育相談の助言を生かした児童理解や指導方法の工夫改善ができています。
特別支援教育	校内支援体制の整備や個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用の充実を図る。	A	特別支援コーディネーターを中核に、組織的に取り組み、児童一人一人に応じたきめ細かく適切な指導及び必要な支援を行うことができた。内容の検討とPDCAサイクルでの改善を行う。

保護者地域との連携	授業や教材の開発に地域の人材など外部人材の活用を図る。ふるさと教育：地域の人・も地域人材の活用を図る。	B	従来のお苗菊などのふるさと学習や読み聞かせに加え、保護者に講師としてお話いただいたキャリア教育、地域学習を新たに取り組むことができた。継続と拡充に努める。
-----------	---	---	---

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・基本的な目標から児童、教職員、地域、学校全体の観点からバランスの良い目標になっていると思う。
- ・児童が楽しい学校生活が送れている教育環境を作っていたらいい。
- ・児童と先生の意識の違いが評価の差に出ているのではないかと。先生方が、厳しい評価をされているようにも感じる。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・子どもたちに合った教育や心と身体を育む取組をたくさん学校生活に取り入れている。
- ・児童が楽しく学校に行っていると保護者も安心して学校に送り出せるので大変いいことだと思う。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・9割近くの児童が「授業が分かり、楽しく学んでいる」と回答しているが、保護者の回答では1割ほど低い評価となっている。一定の肯定的評価で楽しく学ぶ学習や学び合いができていけると考える。 ・「自分の考えを伝え、話し合っている」という項目では児童・保護者ともに教師の回答より低い評価である。今後は、考えを伝え、学び合う学習スタイルをよりふかめていけるよう指導者の授業改善や工夫に取り組んでほしい。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「困ったときに相談することができる」という項目が児童や保護者から2割弱のマイナス評価となっている。子どもたちに考え行動する力や助けを求める力が育っていくように、継続的に声掛けや指導を続けてほしい。 ・いじめや学校に登校しづらい子への対応について、専門家を交えた会議による組織的な対応を充実されていることは評価できる。今後も継続してほしい。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に指導計画を作成していると伺い驚いた。特別支援学級のことをもっと保護者が理解し、子どもに合った教育ができるように支援体制の構築と並行して保護者の考えも変えていく必要があると感じた。
保護者地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流や地域を知る取り組みも多く、良いことだと思っている。一方で、統合前の活動を引き継ごうとするあまり、学校の負担が多くなりすぎないように減らすことも考えながら検討していくことが必要と考える。 ・学校応援団の募集を再開して、新規登録が複数あったことはありがたいことである。協力する気持ちを持っている方はほかにもおられると思う。積極的に申し出る方は限られると思うので、応援団の募集を継続したり、人と人のつながりの中から協力者が増えていったらいいと思う。